

個別の教育支援計画

秘

NO. 1 - 1 (プロフィール表)

平成 年 月 日作成

ふりがな				学校名	学校			
氏名				性別	学年	生年月日		
					年	平成 年 月 日		
ふりがな								
住所	〒			TEL ()				
家族構成	続柄	氏名	職業・学校等	その他の特記事項				
				家族構成や状況などについて、指導や支援に必要な情報があれば記入する。				
		同居人のみ記入する。						
生育歴	生育歴を記入する欄。 ・小学校までの様子は、現在の本人の特性を理解する上で重要な情報になるので、保護者からできるだけ具体的に聞きとり記入する。 ・具体的には、「周産期や乳幼児健康診断の時に見られた特徴」「始歩や始語の時期」「保育所の在籍期間」「小学校で在籍した学級の種別と期間」「保育所や小学校での行われた特別な配慮や実態に関する内容」「専門機関での診断や相談の時期と内容」などが考えられる。 ・地域の就学指導委員会の判断(措置)についても保護者の了解が得られれば、記入する。							
医療機関等の相談記録	年齢	相談機関名	内 容					
			・各種訓練、リハビリ、相談に関わった医療及び専門機関名と、その内容について時期を含めて記入する。 ・手帳の取得状況について記入する。更新の場合は、訂正して書き直す。					
手帳	療育手帳〔有・無〕	A B C	〔認定					
	身体障害者手帳〔有・無〕	種 級	〔認定	平成 年 月 日				

・このページは3年ごとに更新することを原則とする。なお、追記は随時行う。
 ・保護者との協力の下に記述する。

NO. 1 - 2 (プロフィール表)

児 童 生 徒 の 現 在 の 様 子	[身体・運動、生活(よく行く場所など) 社会性、学習など]
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の学習や生活に関する事で、指導や支援をする上で必要と思われる情報を記入する。 ・ 日々の活動記録ではなく、本人の全体像を書くように心がける。 ・ 本人の実態については、「～できない。」という書き方は、極力避け、「～が苦手である。」「～に苦労している。」「～ができる。」という、子どもの立場に立った書き方をするのがよい。 ・ 現担任だけでなく、本人に関わる複数の教員や校内委員会での情報をもとに記入するとよい。 ・ 項目については、「身体・健康」「運動」「家庭生活」「社会性(身辺自立)(対人関係)(集団活動)(移動能力)(自己統制)」「学習」「性格」などが考えられる。 ・ なお、項目は本人の特徴を表すものとして必要と思われるものを取り上げればよい。 ・ 学習については、国語や算数・数学の内容を中心に子どもの特徴がよく表れているものを記入する。 ・ 医療、福祉関係からの指示や意見があれば、ここへ記入する。(機関名や担当者、時期も記入する。) ・ 生活マップなどがあれば、ここへ添付するのもよい。 ・ 記入者以外から得た情報については、誰から得た情報なのか、わかるようにしておくとうよい。 ・ 内容が増えた場合は、新しい用紙に記入する。(複数枚でもよい。)

個別の教育支援計画.....様式例と作成上の留意点(特別支援学級在籍用)

NO. 2 (経年記録表)

児童・生徒名		作成年月日	年 月 日	作成者名	
入学前(幼稚園・保育所・小学校)の情報					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ・特別支援学級では、特に行っていた支援や配慮について記入する。 </div>					
将来の希望		各 期 の 目 標	各期における担任・関係機関による支援		
	入学期	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後で初めて立案するときは、できるだけ早い時期に特別支援教育コーディネーターらと共に、保護者と連絡を取り作成をしていく。 ・各期の目標については、長期的な展望にたって立案(現段階における将来の希望)していくが、無理に全部の時期を埋める必要はない。 ・保護者や本人の思いを大切にす。 ・進級や進学などの節目では、保護者と共に見直すことも必要であり、その時点で加筆修正を行っていく。 <p style="text-align: center;">< 中学校(途中)から作成する場合 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校から教育支援計画が上がってくる場合には、小学校高学年までの部分においては、中学校で書き直す必要はない。 ・中学校以降については、保護者との確認の中で変更があれば、加筆修正していく。 ・中学校から作成する場合には、小学校までの欄(作成時期以前)は空白になる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ・どんな指導をして、どんな成果や課題があったかを記入する。 ・学校内だけではなく、専門機関での取組の様子や家庭生活での変化なども記入するとよい。 </div>		
	小中学年				
	小高学年				
	中学				
	高校				
	成人				

- ・このページは、3年ごとに更新することを原則とするが、加筆修正は随時行う。
- ・NO.2以降は、通常の学級・特別支援学級ともに、同じ様式を使用する。子供の発達時期において、見直しをもつことは、通常の学級でも特別支援学級でも変わりはない。なお、通常の学級在籍者については、記入を要しない部分もある。

個別の教育支援計画.....様式例と作成上の留意点(特別支援学級在籍用)

NO. 3 (支援の計画表)

平成 年 月 日作成

学年	児童生徒氏名	作成者	所属
年			職名
本人の願い	<ul style="list-style-type: none"> 学習面と生活面(どちらか一方でもよい)における、本人の願いを聞き取って記入する。 本人に発語がなければ、保護者から聞き取る。 この内容は、本年度の目標に可能な限り反映させること。 	保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> 左の「本人の願い」欄と同様に保護者の願いを聞き取って記入する。 この内容は、本年度の目標に可能な限り反映させること。
<p>・「本人の願い」「保護者の願い」は、個別の指導計画の「願い」に転記する。</p>			
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と相談しながら、願う姿(この1年で伸ばしたい重点目標)をできるだけ具体的に設定する。 教師や保護者の願いだけでなく、本人のニーズにも照らし合わせること。 	支援の手だて	<ul style="list-style-type: none"> 考えられる大まかな手だてを記入する。(指導場面や方法など) 学校での取組とともに、家庭での協力も記入する。
現状・課題・支援目標・内容など			連絡先・担当者
関係機関の具体的支援・連携等	医療	<ul style="list-style-type: none"> 本人が関わっている関係機関からのアドバイス等について記入する。 関係機関に関わっている頻度(通っている回数など)がわかれば記入する。 かわりがあった時点で、加筆していく。 連絡先や担当者を明記しておくことで、相談や情報交換を行いやすくしておく、連携して支援に当たることを心がけるようにする。 	
	福祉		
	教育		
	地域		
	労働		
	保健		
	その他		
【評価】		<ul style="list-style-type: none"> 目標に対する具体的な変容を客観的に評価し、記入する。 担任だけでなく、校内委員会で多くの立場から評価すること。 関係機関の担当者からの評価を記入する。 	
【次年度への引継事項】		<ul style="list-style-type: none"> 継続して行う支援や、再検討する事柄について記入する。 校内だけでなく、関係機関との連携に関しても引き継ぐことがあれば、記入する。 中学校への引継ぎについては、保護者の同意を得ることが必要。 	
心理検査	検査の種類〔 〕	検査の結果〔 〕	
	検査者名〔 〕	検査月日〔 年 月 日 〕	
【特記事項】	検査の種類〔 〕	検査の結果〔 〕	
	検査者名〔 〕	<ul style="list-style-type: none"> 知能検査(田中ビネー、WISC- など)の結果を記入する。 特記事項には、大まかな結果の解釈についても記入する。 検査用紙や詳しい分析結果などがあれば、必ず添付しておく。 通常の学級の場合、1枚目に記入欄があるので、ここには記入しない。 	

このページは、関係機関との連携を中心に支援内容等を記入し、毎年作成する。加筆修正は随時行う。

個別の教育支援計画

秘

NO. 1 - 1 (プロフィール表)

平成 年 月 日作成

ふりがな				学校名	立 小学校	
氏 名				性 別	学 年	生 年 月 日
				男・女	4 年	平成 年 月 日
ふりがな						
住 所	〒 TEL ()					
家族構成	続柄	氏 名	職業・学校等	その他の特記事項		
	父		自営業	・母は本人が幼少より別居 ・現在、母は隣市で一人暮らし		
	兄		中学 年			
	祖父					
	祖母					
生育歴	・出産時の体重 2,730g 歩き始め 18か月 始語 不明					
	・平成 年 「 症」と診断される。 < 市民病院・ 医師 >					
	・3歳児健診で言葉に遅れがあると指摘される。					
	・平成 年 月 児童相談センターで、C判定を受ける。					
	・平成 年 月 クリニックで言語訓練を受ける。					
	・平成 年 小1 言語障害通級指導教室にて1年間指導を受ける。					
	・平成 年 月 小2 特別支援学級(知的障害)へ入級。					
	・平成 年 月 学園で言語訓練を受ける。					
医療機関等の相談記録	年 齢	相談機関名	内 容			
	5 歳	病院・ 医師	発達の検診を受ける。			
	6 歳	クリニック・ 聴覚士	言語訓練を受ける。10歳終了			
	11 歳	学園	言語訓練を受ける。			
	12 歳	大学附属病院	経過観察中。			
手 帳	療育手帳〔有(無)〕 A B C〔認定 平成 年 月 日〕					
	身体障害者手帳〔有(無)〕 種 級〔認定 平成 年 月 日〕					

* 加筆修正等は随時行う。(上記丸ゴシック体の部分)

NO. 1 - 2 (プロフィール表)

児童生徒の現在の様子	〔身体・運動、生活(よく行く場所など)、社会性、学習など〕
	(身体)・肘に動きにくさがある。
	・背骨の曲がりも心配されるので、姿勢を保持する指導が重要である。
	・思春期にホルモンバランスが崩れる心配がある。
	・着替えには時間がかかるが、一人でできる。
	(身辺自立)・排尿を長時間放課と昼放課に促す必要がある。
	・給食は自分で食べることができる。
	(運動)・体を動かして遊ぶことが好き。
	・マット運動などで肘を使う場合は補助が必要である。
	・手すりを使って階段の上り下りができる。
	(家庭)・母親とは月1回程度会っている。
	・祖父母との仲が悪く、家では部屋に閉じこもることが多いとのこと。
	(社会性)・「おはよう」とあいさつを返すことができる。
	・特別支援学級の友達とは仲良く遊ぶことができるようになってきた。
	(学習)・文字は枠内に書ける。
・計算は二桁の加減を学習中である。	
・時間の感覚や曜日のイメージもてる。	
(性格)・明るく活動的な性格であるが、大勢の前では過度に緊張して動けなくことがある。	
(年 月 日 記入者)	
<医療>	
・給食後の服薬を欠かさないようにする。 < 大学附属病院・ 医師 >	
<地域>	
・下校後は、 児童館で夕方まで過ごしている。	
生活マップ	

個別の教育支援計画.....小学校記入例(特別支援学級在籍用)

NO. 2 (経年記録表)

児童・生徒名		作成年月日	年 月 日	作成者名
入学前(幼稚園・保育所・小学校)の情報 ・排尿を2時間ごとに促す必要がある。 (年長組担任 保育士)				
将来の希望	各 期 の 目 標	各期における担任・関係機関による支援		
	入学期	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活のリズムに慣れる。 ・学級で安心して過ごせるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導教室(言語)で、個別指導を進め、小2より特別支援学級(知的)入級。 ・交流学級の担任と連携し、交流及び共同学習を組んで行ったが、授業内容の理解が不十分だったので、いったん中止した。 	
	小中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ自分の思いを言葉で言えるようにする。 ・自分のできること、興味のあることを知り、自分なりに挑戦することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉は少ないものの、意思が伝えられるようになり、交流及び共同学習を再開した。 ・家庭では、児童館へ積極的に出かけるようにする。 ・クリニックにて言語訓練を終了する。訂正 学園にて再開(年月)記入者 	
	小高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや願いを言葉で伝えられるようにする。場に応じた言い方を学ぶ。 ・自分のできること、興味のあることを知り、自分なりに挑戦したり継続したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学附属病院にて経過観察中。 ・計算能力を補うため、計算機の使い方を指導し、買い物ごっこができた。 ・中学への体験入学を2回実施して、進学先を父親と相談の上決定した。 	
	中学	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の特別支援学級(知的)で社会性を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の協力を得て、買い物の練習を繰り返す行う。 ・部活動や教科の授業で、交流及び共同学習の場をなるべく多く設定し、人とかがかわる力を伸ばす。 	
	高校	<ul style="list-style-type: none"> ・養護学校の高等部、または専門学校へ進学し、実社会で生きていく力を身に付ける。 		
成人	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を理解して雇用してくれる会社で働き、自立生活を送る。 			

個別の教育支援計画.....小学校記入例(特別支援学級在籍用)

NO. 3 (支援の計画表)

平成 年 月 日作成

学 年	児童 生徒 氏名	作成者	所属
6 年			職名
本人の 願 意	・友達と仲良くしたい。 ・自分のできることを増やしていきたい。	保護者の 願 意	・友達と一緒に掃除をする等、できることは やらせていきたい。
本年 度 の 目 標	・自分の思いや願いを短い言葉(2語続けて) で表現することができる。 ・放課は交流学級で友達と一緒に過ごすこと ができる。	支 援 の 手 だ て	・家庭内でも主語、述語を付けて会話するよ うに配慮する。 ・放課・給食時は交流学級へ移動して児童と 共に遊ぶ。
現 状 ・ 課 題 ・ 支 援 目 標 ・ 内 容 など			連 絡 先 ・ 担 当 者
関 係 機 関 の 具 体 的 支 援 ・ 連 携 等	医 療	・ 大学附属病院で検診中。	科 医師
	福 祉	・ 学園で言語訓練を受けている。長期休業中に訪問をし、連携 を図っている。	() -
	教 育	・ 中学校特別支援学級(知的)への進学を主に連携をとる。 ・ 養護学校にも体験入学へ行く予定(10月)。	中学 教諭 養護学校
	地 域	・帰宅後は 児童館で過ごすことが多く、持ち物(おこづかい) の保管を依頼している。	() -
	労 働		
	保 健		
	そ の 他	・ 養護学校の巡回指導で、先生より本人が落ち着ける場所 を作ることをアドバイスされた。	
【 評 価 】 ・言葉が続き、会話の成立がスムーズになった。 ・交流学級で、声をかけてくれる児童ができた。			
【 次年度への引継事項 】 ・交流学級では 君には自分から話しかけることができるので、座席を近くにしてほしい。 ・ 児童館との連絡を密にして、時々様子を見てもらえるとよい。 ・道路の横断方法や信号機の確認など、交通ルールの習得を継続してほしい。			
心 理 検 査	検査の種類〔 田中ビネーV 〕 検査の結果〔 IQ : 55 〕		
	検査者名〔 〕 検査月日〔 年 月 日 〕		

検査の種類〔 〕 検査の結果〔 〕			
検査者名〔 〕 検査月日〔 年 月 日 〕			

【特記事項】 特になし			

個別の教育支援計画

秘

NO. 1 - 1 (プロフィール表)

平成 年 月 日作成

ふりがな				学校名	中学校		
氏名				性別	学年	生年月日	
				男	1年	平成 年 月 日	
ふりがな							
住所	〒 TEL ()						
家族構成	続柄	氏名	職業・学校等	その他の特記事項			
	父		会社員	・家庭での障害理解・受容は良好で、 兄妹の人間関係も良い。 ・近くに父方の祖父母が住んでいる。			
	母		保育士				
	兄		高等学校3年				
	妹		小学校6年生				
生育歴	・出産時2,860g 歩き始め17ヶ月 始語20ヶ月 ・1歳半健診で、言語の遅れと低身長を指摘される。 ・3歳健診で、発達の遅れを指摘される。児童相談所を紹介され、検査を受けて知的障害と判定される。 ・また、市の言語訓練教室を紹介され、通い始める。 ・平成 年 月 年中 保育所(障害児保育)に通園し始める。 ・平成 年 4才 「自閉症」と診断される。 < 市民病院・ 医師 > ・平成 年 月 小1 小学校 特別支援学級(自閉症・情緒障害)に入学。 ・平成 年 月 中1 中学校 特別支援学級(自閉症・情緒障害)に入学。						
	医療機関等の相談記録	年齢	相談機関名	内 容			
		1歳	保健所	言語の遅れと低身長の指摘を受ける。			
		3歳	児童相談所	知的障害と判定され、言語訓練教室を紹介される。			
		4歳	市民病院	自閉症と診断される。			
	手帳	療育手帳 [有(無)] A (B) C [認定 平成 年 月 日]					
身体障害者手帳 [有(無)] 種 級 [認定 平成 年 月 日]							

個別の教育支援計画.....中学校記入例(特別支援学級在籍用)

NO. 2 (経年記録表)

児童・生徒名		作成年月日	年 月 日	作成者名
入学前(幼稚園・保育所・小学校)の情報 ・4歳から障害児保育に通園し始める。 言葉の遅れが目立つ。語彙が少なく、自分から話すことが少ない。 集団行動は苦手である。				
将来の希望	各 期 の 目 標	各期における担任・関係機関による支援		
	入学期	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に少しずつ慣れ、落ち着いて過ごすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園との情報交換を密にし、焦らずに小学校の生活に慣れるように見守る。 市の言語訓練教室と連携を図り、情報を指導に生かす。 	
	小中学年	<ul style="list-style-type: none"> 学習用具を自分で用意したり、最後まで片付けができるようになる。 決まった手伝いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で気が付いて行動できるように、指示や声掛けの仕方に注意する。 吃音や発音不明瞭なことを気にせず、話ができるように雰囲気作りをする。 	
	小高学年	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な日記や作文を書ける。 一人で買い物に行ったり、決まった手伝いができる。 自分の言いたいことを分かりやすく伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名や片仮名を書く力を確実につける。 単語を正しく書く練習をし、助詞の使い方を日常の場面で教えていく。 自分がしたことや思ったことを言葉に表す練習をする。 	
	中学	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の特別支援学級で社会性を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の協力を得て、買い物の練習を繰り返す。 部活動や教科交流の場をなるべく多く設定し人とかわる力を伸ばす。 	
	高校	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校へ進学し、就労に向けての力を身に付ける。 		
成人	<ul style="list-style-type: none"> 福祉就労をする。 			

個別の教育支援計画.....中学校記入例(特別支援学級在籍用)

NO. 3 (支援の計画表)

平成 年 月 日作成

学年	児童生徒氏名	作成者	所属
3年			職名
本人の願い	<ul style="list-style-type: none"> 宿題を毎日忘れずにやりたい。 部活動を頑張りたい。 高等部入学に向けて、勉強を頑張りたい。 	保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> 高等部入学に向けて頑張らせたい。 社会性を伸ばしたい。
本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> 国語の力を伸ばす。 友達に過干渉にならずに、相手の話も聞きながらかわれるようにする。 	支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> 友達の行動にこだわり、付きまとわないように声掛けをし、本人のできることを指示する。 ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、人とのかわり方について具体的に教える。
現状・課題・支援目標・内容など			連絡先・担当者
関係機関の具体的な支援・連携等	医療	<ul style="list-style-type: none"> 市民病院で受診中 高等部に向けての準備(通学等)を始めると良いと助言される。 	児童精神科 医師 TEL -
	福祉	<ul style="list-style-type: none"> 市の言語訓練教室に通う。(平仮名を書くための支援方法について助言をいただいている。) 事業所のデイサービスを時々利用している。 	市言語訓練教室 TEL -
	教育	<ul style="list-style-type: none"> 養護学校に教育相談に行き、入学までの課題について助言をいただいた。 	養護学校 主事 TEL
	地域		
	労働		
	保健		
	その他		
<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを入れて日記や作文を書けるようになった。 友達との距離の取り方が少しずつ上手になってきた。 			
<p>【次年度への引継事項】</p> <p>交流学級では黙って動けなくなってしまうことがある。本人が次の活動への見通しをもてるように視覚的な支援をするとよい。</p>			
心理検査	検査の種類〔 WISC - 〕 検査の結果〔VIQ:55 PIQ:71 FIQ:58 VC:58 PO:76 FD:50 PS:58〕		
	検査者名〔 〕 検査月日〔 年 月 日 〕		
心理検査	検査の種類〔 田中ビネーV 〕 検査の結果〔 IQ:60 〕		
	検査者名〔 〕 検査月日〔 年 月 日 〕		
<p>【特記事項】動作性IQの方が言語性IQより優位。指示は簡潔に行い、視覚的な手がかりがあると理解しやすい。</p>			